

1  
ダビデ  
聖徒伝 97

# 「悔い改めの 勝利を手に」

1 サムエル記29～30章

ダビデの血族奪還の戦い

# アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. ペリシテ軍と上るダビデ 29章
- II. 略奪の跡。奪還の戦い 30章
- III. まとめと適用

御言葉を握りしめ 人生の荒野へ

～詩篇23篇～







【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪  
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム  
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル  
王国時代  
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨  
世界宣教  
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国  
大審判  
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

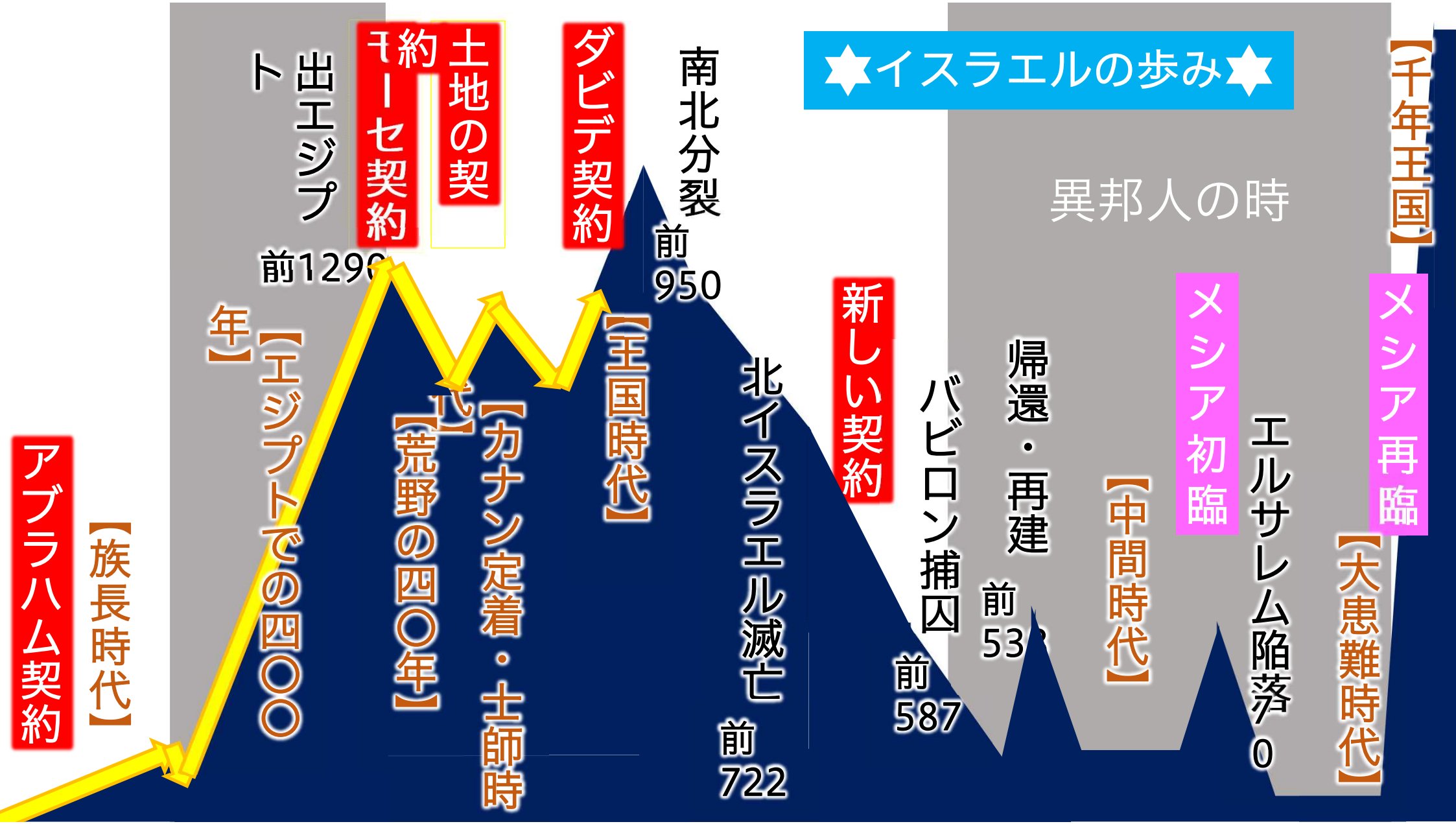
神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★



異邦人の時

新しい契約

メシア初臨

メシア再臨

アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

【王国時代】

前722

北イスラエル滅亡

前587

バビロン捕囚

前53

帰還・再建

【中間時代】

エルサレム陥落 0

【大患難時代】

【千年王国】



サムエル記 第一

士師時代  
王政時代

サムエル	1 : 1~2 : 11	サムエルの誕生
	2 : 12~3:21	サムエルの召命
	4:1~7:17	奪われた契約の箱
	8 : 1~9:27	後継者不在 王を求める民
サウル	10:11~11:15	油注ぎ
	12:1~25	士師サムエルの民への告別
	13:1~15:35	王が重ねた神への背き
ダビデ	16:1~13	油注ぎ
	16:14~23	王宮での奉仕
	17:1~58	ゴリヤテとの戦い
	18:1~30	偉大な戦績・王の娘との結婚
	19:1~26:25	荒野の逃亡の日々
	27:1~30:31	ペリシテ人の地で
	31:1~13	サウルの死



## 【ダビデとサウルの足取り】 | サムエル記11～28章

■ サウルは、主に背き、神の目に、王権すら剥奪された。神は、御心に叶ったダビデに油を注いだ。

■ 勇士として名を挙げたダビデにサウルは嫉妬し、殺意を抱く。以来、ダビデの逃亡生活が始まった。

■ ダビデは、サウルを討つ機会を二度もあえて見逃した。一方のサウルは変わらず、両者の道は交わらなかった。

■ サムエル亡きあと、ペリシテの軍がイスラエルに迫る。不安に駆られたサウルは、霊媒に頼む罪を犯した。一方、ペリシテにくだっていたダビデも招集されていた。





# サウルとダビデの足取り

サウル

ダビデ

ギルボアに陣取る 28:4,29:1

霊媒に伺う 28:5~25

**サウルの最後の夜**

ペリシテとの戦い 31:1~13

ペリシテからの召集 28:1~3

ペリシテの先陣 28:4,29:1~2

引き帰されるダビデ 29:3~11

略奪された拠点の町 30:1~5

家族の奪還・凱旋 30:6~31

# Ⅰ. ペリシテ軍と上るダビデ | サムエル記28章



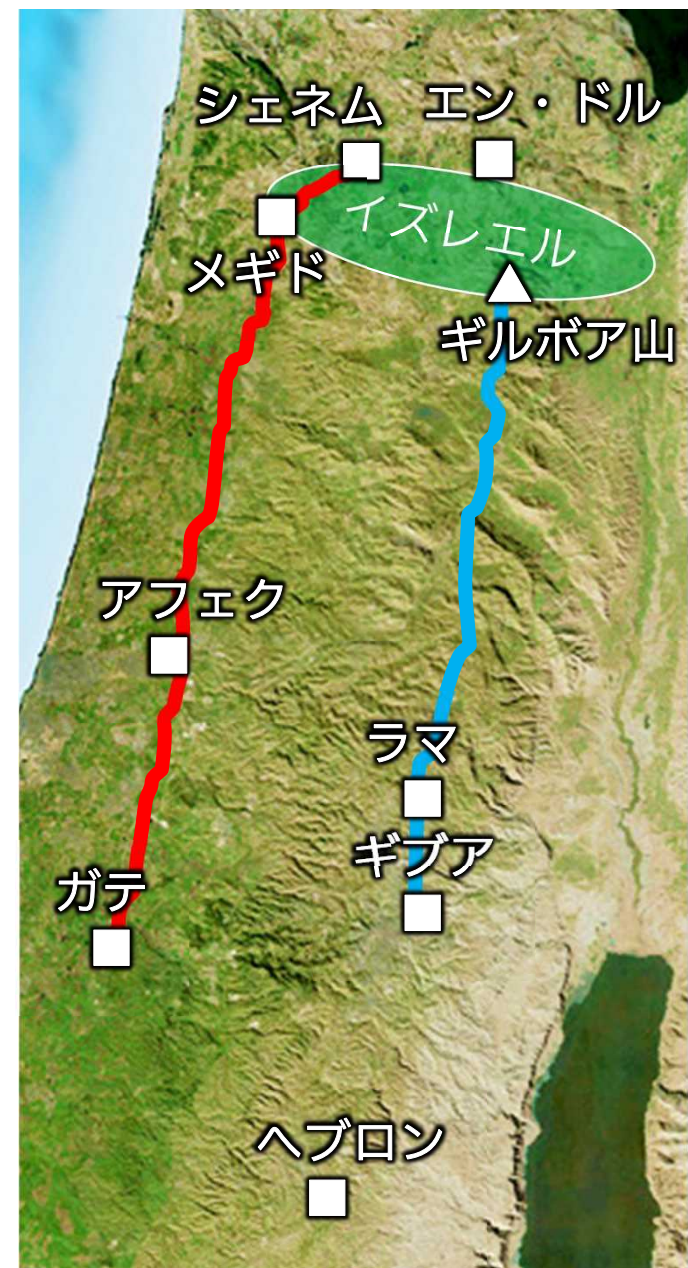
メギドとイズレエル平原



## 【集結するペリシテ本隊】 サムエル29:1～2

ペリシテ人は全軍を**アフェク**に集結し、イスラエル人は**イズレエル**にある**泉のほとり**(**ギルボア山**)に陣を敷いた。ペリシテ人の領主たちは、百人隊、千人隊を率いて進み、**ダビデ**とその部下は、**アキシュ**と一緒にその後に続いた。

- サウル率いるイスラエルは、**ギルボア山**に。ペリシテ軍の先陣は、イズレエル平原を挟み、**シェネム**に陣取っていた。
- ペリシテ軍の本体は、**アフェク**に終結した後、いよいよサウルの本陣に攻め上る。



## 【首長たちの疑問】 Ⅰサムエル29:3

ペリシテ人の首長たちは言った。「このヘブル人たちは、いったい何なのですか。\*」

アキシュはペリシテ人の首長たちに言った。

「確かにこれは、イスラエルの王サウルの家来ダビデであるが、この一、二年、私のところにいる。私のところに落ちのびて来てから今日まで、私は彼に何の過ちも見出していない。」

\*もちろんダビデだと分かった上での疑問の表明。





## 【膨らむ疑念】 | サムエル29:4~5

ペリシテ人の首長たちはアキシュに対して腹を立てた。ペリシテ人の首長たちは彼に言った。

「この男を帰らせてほしい。あなたが指定した場所に帰し、私たちと一緒に戦いに行かせないでほしい。戦いの最中に、われわれに敵対する者となってはいけない。この男は、どのようにして自分の主君の好意を得るだろうか。ここにいる人たちの首を使わないだろうか。

この男は、皆が踊りながら、『サウルは千を討ち、ダビデは万を討った』と歌っていたダビデではないか。」



## 【アキシュの配慮】 | サムエル29:6

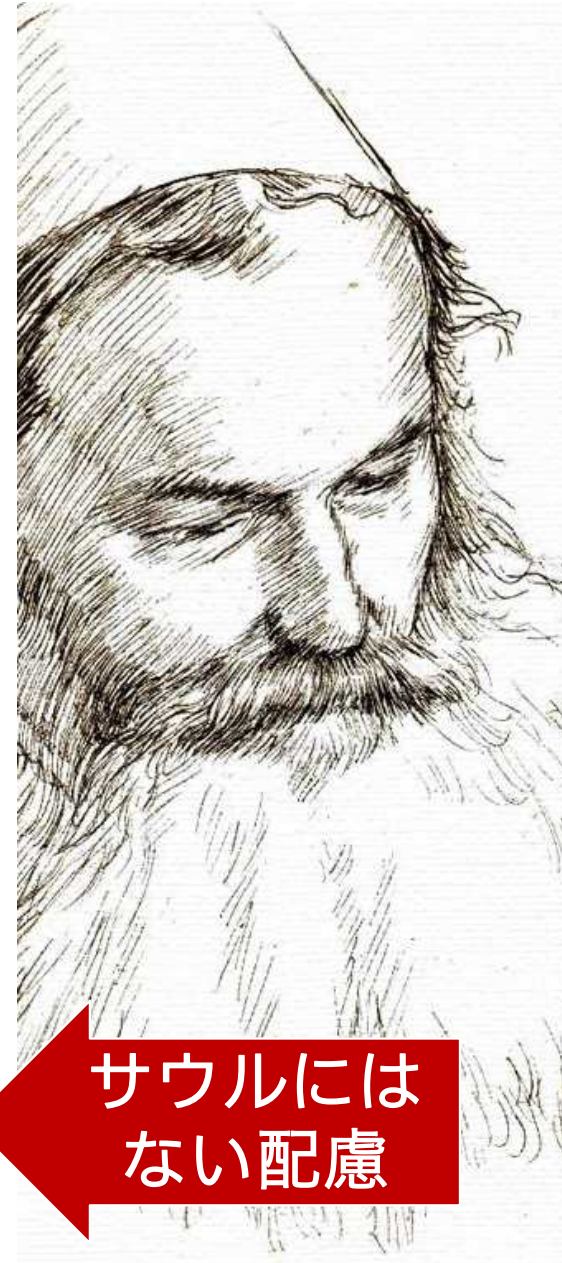
そこでアキシュはダビデを呼んで言った。

「【主】は生きておられる。\*あなたは真っ直ぐな人だ。あなたには陣営で、私と行動をともにしてもらいたかった。あなたが私のところに来てから今日まで、あなたには何の悪いところも見つけなかったからだ。しかし、あの領主たちは、あなたを良いと思っていない。」

\*主の名を口にしたのは、ダビデへの敬意の表明

■大戦を前に返されるほど不名誉なことではない。

勇士であるダビデの自尊心へのアキシュの配慮。



サウルには  
ない配慮



## 【反発するダビデ】 | サムエル29:7~8

「だから今、穏やかに帰ってくれ。ペリシテ人の領主たちが気に入らないことはしないでくれ。」

ダビデはアキシュに言った。「私が何をしたというのですか。あなたに仕えた日から今日まで、しもべに何か過ちでも見出されたのですか。わが君、王様\*の敵と戦うために私が出陣できないとは。」

\*すっかりペリシテ王の臣下と化したダビデの姿。

■王の兵としての名誉を訴える、倒錯した態度。

あざむき？ ダビデは案外、本気だった？

例) 教理的逸脱に陥った者を変にかばってしまう。



## 【アキシュの促し】 | サムエル29:9~10

アキシュはダビデに答えて言った。「私は、あなたが神の使いのように正しいということをよく知っている。だが、ペリシテ人の首長たちが『彼はわれわれと一緒に戦いに行ってはならない』と言ったのだ。

さあ、一緒に来た自分の主君の家来たち\*と、明日の朝早く起きなさい。朝早く、明るくなり次第出発しなさい。」

\*あなたの主君の家来たち(第三版),

➡“サウルのところから来た者たち(TEV)”とも。

■ アキシュは、ダビデの家来たちに疑念を抱いた？

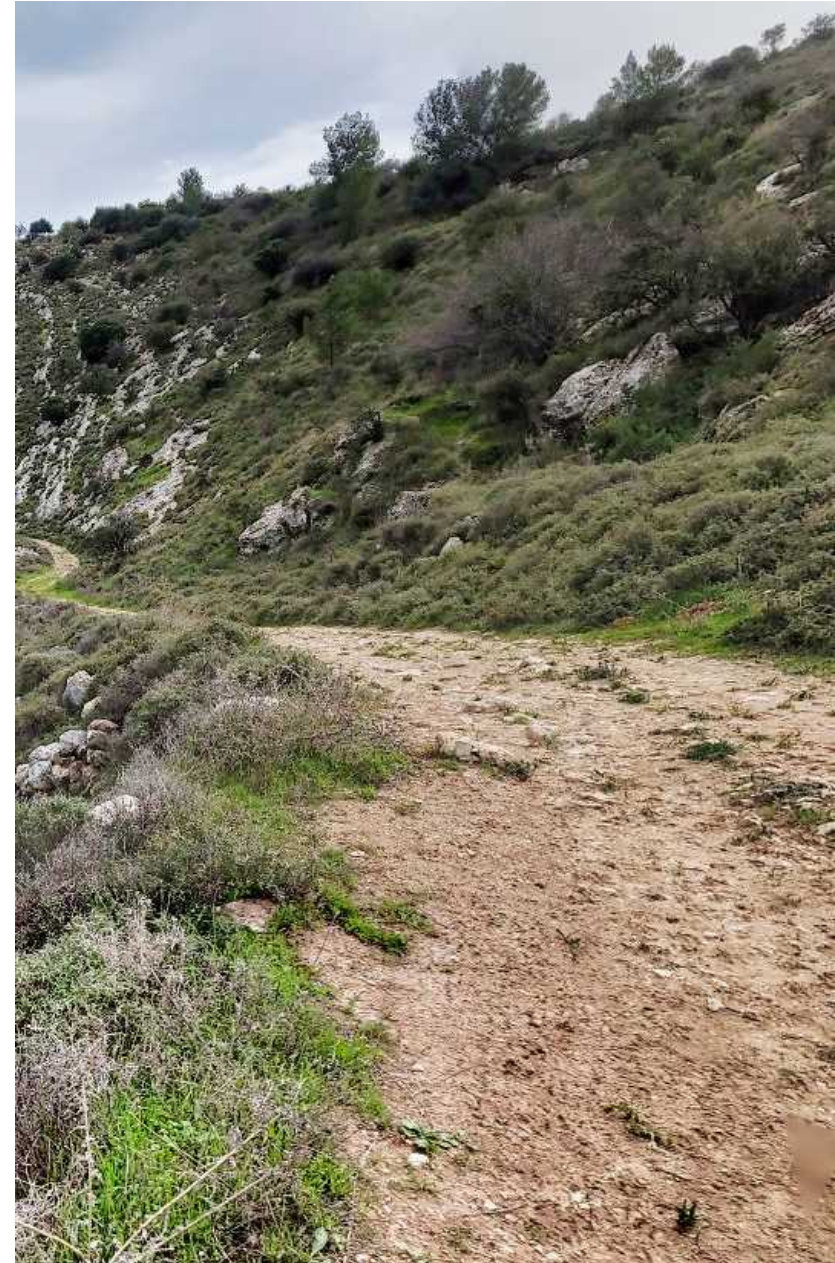




## 【帰されたダビデ】 | サムエル29:11

ダビデとその部下は、翌朝早く、ペリシテ人の地へ帰って行った。ペリシテ人はイズレエルへ上って行った。

- 意図しない形で、ダビデは返され、イスラエルとの戦いを回避させられた。
- 倒錯の罪の罠に陥っていくダビデを主が背後で守られた。
- 敵を利用しようとしても飲まれるだけ。求められるのは、ただ主への従順のみ。







## II. 略奪の跡 奪還の戦い | サムエル記30章

ネゲブ

## 【焼き払われた町】 | サムエル30:1~2

ダビデとその部下が三日目にツィクラグに帰ったとき、アマレク人\*はすでに、ネゲブとツィクラグを襲っていた。彼らはツィクラグを攻撃して、これを火で焼き払い、そこにいた女たちを、子どもも大人もみな捕らえ、一人も殺さず\*、自分たちのところへと連れ去っていた。

\*出エジプトの際、落伍者を狙い撃ちにし、その罪によってサウルに聖絶が命じられた民。

\*憐れみではなく、強欲さのゆえだろう。

➡ 奴隷として売り、利用すればさらなる富が!!





## 【思わぬ惨劇】 | サムエル30:3~5

ダビデとその部下が町に着いたとき、なんと、町は火で焼かれていて、彼らの妻も息子も娘も連れ去られていた。ダビデも、彼と一緒にいた兵たちも、声をあげて泣き、ついには泣く力もなくなった。

ダビデの二人の妻、イスレエル人アヒノアムも、ナバルの妻であったカルメル人アビガイルも連れ去られていた。

- サウルが聖絶しなかったアマレクが、ペリシテ軍に加勢したダビデの留守に襲う皮肉。  
➡ 神のダビデへの懲らしめでもあったろう。





## 【ダビデの苦境】 Ⅰサムエル30:6

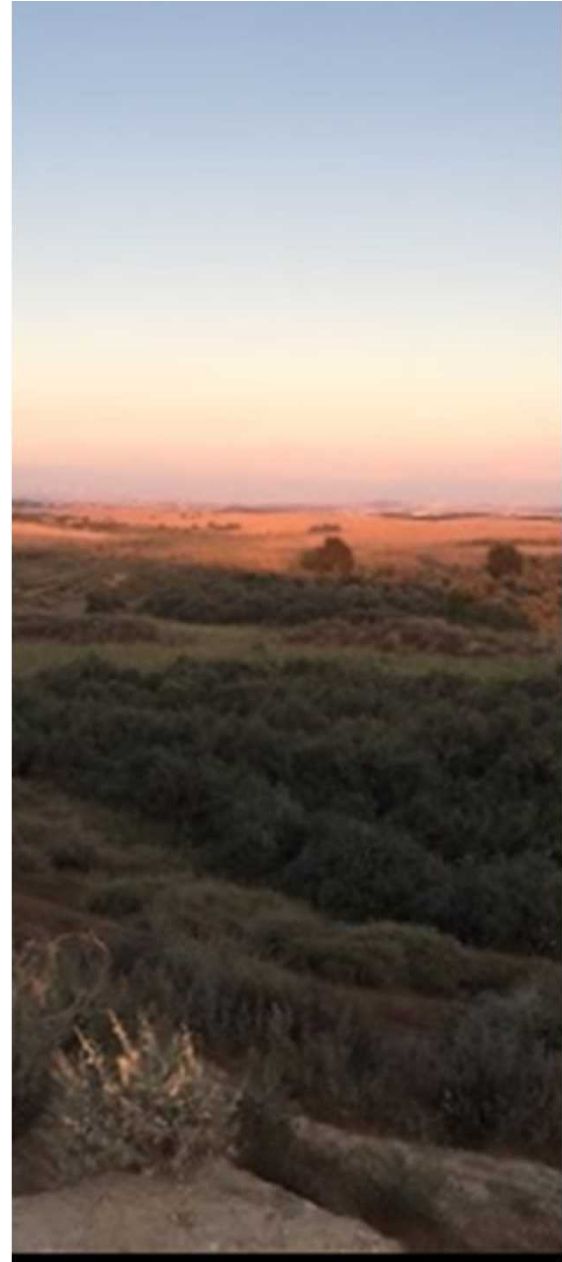
ダビデは大変な苦境に立たされた。兵がみな、自分たちの息子、娘たちのことで心を悩ませ、ダビデを石で打ち殺そう\*と言い出したからだった。しかし、ダビデは自分の神、【主】によって奮い立った。

\*ペリシテ軍への加勢に反対の者もいただろう。

➔何より、やり場のない怒りはダビデに向いた。

■絶対絶命の窮地に、主に立ち返ったダビデ。

ただ主により頼み、主に力を与えられた。



## 【主に伺うダビデ】 | サムエル30:7~8

ダビデは、アヒメレクの子、祭司エブヤタルに言った。「エポデを持って来なさい。\*」エブヤタルはエポデをダビデのところに持って来た。

ダビデは【主】に伺った。「あの略奪隊を追うべきでしょうか。追いつけるでしょうか。」すると、お答えになった。「追え。必ず追いつくことができる。必ず救い出すことができる。」

\*神意を問うため、ウリムとトンミルを求めた。

■ペリシテに逃れて以降、はじめて主の御心を聴いたダビデ。悔い改めに、主は答えられた。



## 【ベソル川にて】 | サムエル30:9～10

ダビデは六百人の部下とともに出て行き、ベソル川まで来た。残ることになった者は、そこにとどまった。ダビデと四百人の者は追撃を続け、疲れきってベソル川を渡れなかった\* 二百人の者が、そこにとどまった。

\*遠征からの帰還、激しい落胆の後の出撃。

■御心が示されたなら、即断即行が信仰者の証し。

すぐさま追撃に出たダビデ。回復した信仰。

■砂漠の民が略奪に来るのは基本、収穫期。

略奪が収穫期だったなら、川には水があった。

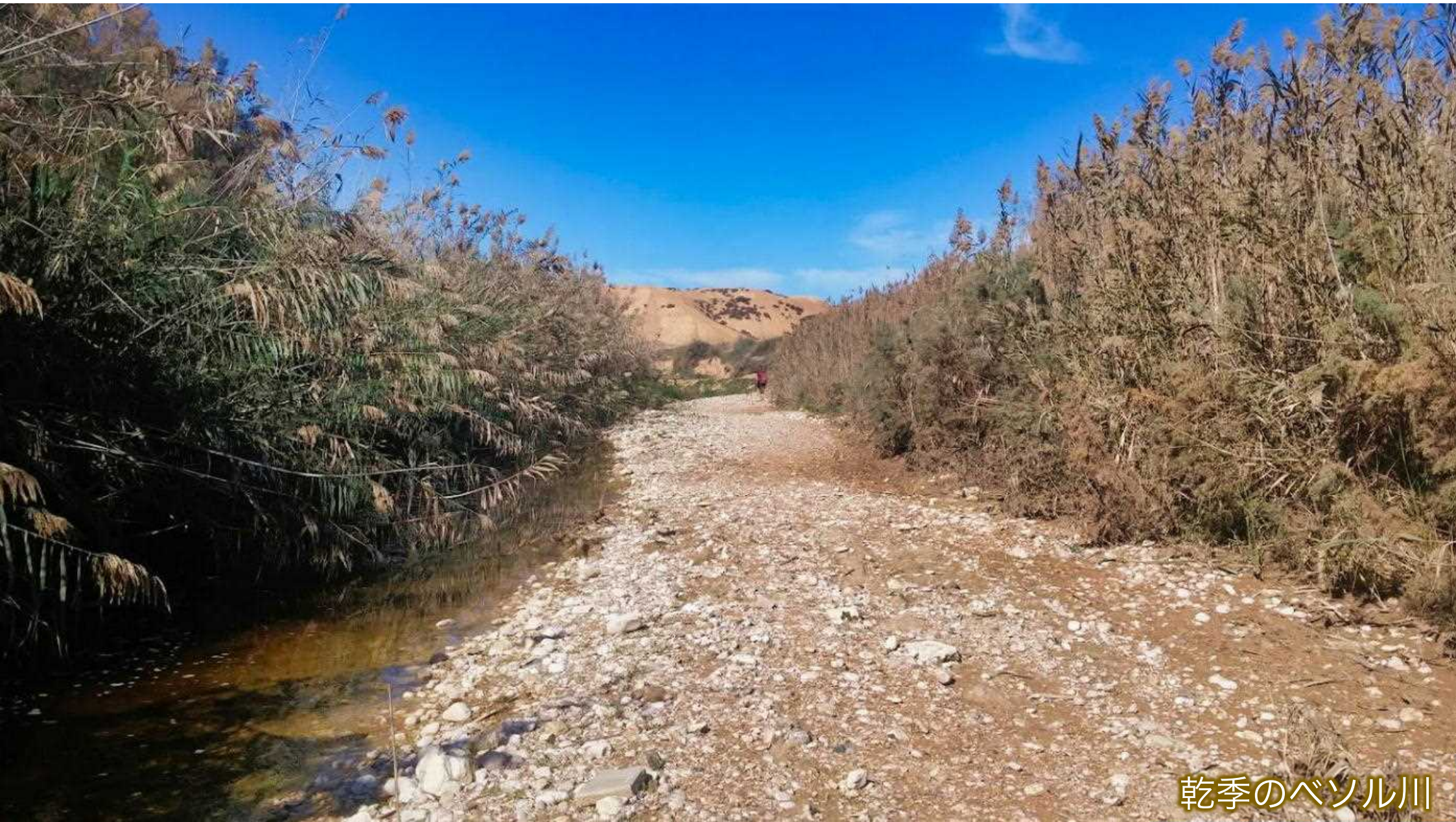






雨季のベソル川





乾季のベソル川

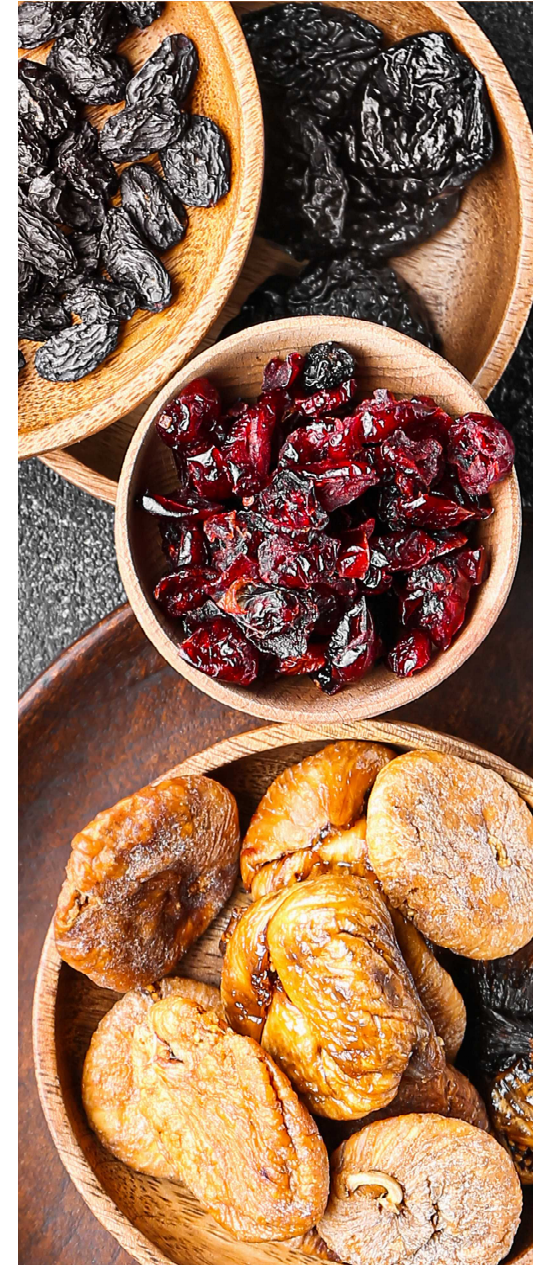


## 【一人のエジプト人】 | サムエル30:11~12

兵たちは野で一人のエジプト人\*を見つけ、ダビデのところに連れて来た。彼らは彼にパンをやって、食べさせ、水も飲ませた。

さらに、ひとかたまりの干しいちじくと、二房の干しぶどうをやると、そのエジプト人はそれを食べて元気を回復した。彼は三日三晩、パンも食べず、水も飲んでいなかったのである。

\*ネゲブからシナイ半島一帯がアマレクの略奪場。  
襲ったエジプト人を奴隷にしていたのだろう。





## 【捨てられた奴隷の告発】 | サムエル30:13~14

ダビデは彼に言った。「おまえはだれのものか。どこから来たのか。」すると答えた。「私はエジプトの若者で、アマレク人の奴隷です。私が三日前に病気になったので、主人は私を置き去りにしたのです。

私たちは、クレタ人のネゲブと、ユダに属する地と、カレブのネゲブを襲い、ツィクラグを火で焼き払いました。」

■ 窮乏した異邦人を助けたことが益となった。

➡ 敵の正体と動向が明らかに。戦いの備えが!!



## 【案内役】 | サムエル30:15

ダビデは彼に言った。「その略奪隊のところに案内できるか。」彼は言った。「私を殺さず、主人の手に私を渡さないと、神にかけて私に誓ってください。そうすれば、あの略奪隊のところに案内いたします。」

- 死にかけていた奴隷が願ったのは、アマレクの主人の下にだけは、戻りたくないということ。  
→ ここからもうかがえる、アマレクの残虐さ。



## 【アマレクとの戦い】 | サムエル30:16~17

彼はダビデを案内して行った。すると、なんと、アマレク人たちはその地いっばいに散って食べたり飲んだりし、お祭り騒ぎをしていた。彼らがペリシテ人の地やユダの地から奪った分捕り物が、とても多かったからである。

ダビデは、その夕暮れから次の夕方まで彼らを討った。らくだに乗って逃げた四百人の若者たちのほかは、一人も逃れることができなかった。

- 一帯をせめ滅ぼし、油断しきっていた敵に襲い掛かったダビデ軍。大軍も形無し。





## 【戦勝品】 | サムエル30:18～20

ダビデは、アマレクが奪い取ったものをすべて取り戻した。ダビデは、二人の妻も救い出した。

子どもも大人も、息子たちも娘たちも、分捕られた物も、彼らが奪われたものは、何一つ失われなかった。ダビデは、これらすべてを取り返した。

ダビデはまた、すべての羊と牛を奪った。兵たちは家畜の先に立って導き、「これはダビデの戦勝品だ」と言った。

■すべて取り返され、加えて与えられた。

主に従い歩む者への恵みの原則(マタイ6:33)



## 【ベソル川にて】 | サムエル30:21～22

ダビデは、疲れてダビデについて来ることができずにベソル川のほとりにとどまっていた二百人の者のところに来た。彼らは、ダビデと彼に従った者たちを迎えに出て来た。ダビデは、この人たちに近づいて彼らの安否を尋ねた。

ダビデと一緒にいった者たちのうち、**意地の悪い、よこしまな者たち\***がみな、口々に言った。「彼らと一緒に行かなかったのだから、われわれが取り戻した分捕り物は、分けてやるわけにはいかない。ただ、それぞれ自分の妻と子どもを連れて行くがよい。」

**\*どこでもいます!!** ダビデ軍にも信者の群れにも





## 【分かち合うべき主の恵み】 | サム30:23~24

ダビデは言った。「兄弟たちよ。【主】が私たちに下さった\*物を、そのようにしてはならない。主が私たちを守り、私たちを襲った略奪隊を私たちの手に渡されたのだ。

だれが、このことについて、あなたがたの言うことを聞くだろうか。戦いに下って行った者への分け前も、荷物のそばにとどまっていた者への分け前も同じだ。ともに同じく分け合わなければならない。」

\*分かち合うべき根拠は、主の一方的な恵みゆえ。





## 【ユダの長老たちへ】 | サムエル30:25～26

その日以来、ダビデはこれをイスラエルの掟とし、定めとした。今日\*もそうである。ダビデはツィクラグに帰って来て、友人であるユダの長老たち\*に戦勝品の一部を送って言った。「これはあなたがたへの贈り物で、【主】の敵からの戦勝品の一部です。」

\*ダビデの治世の末頃か、ソロモンの治世の始めか。

\*サウルから逃げのびる中でも、ケイラの町を救ったり、ユダ族の長老たちの信頼を得ていたダビデ。

➡苦難の時に培った人脈が、ダビデの王政の礎に。

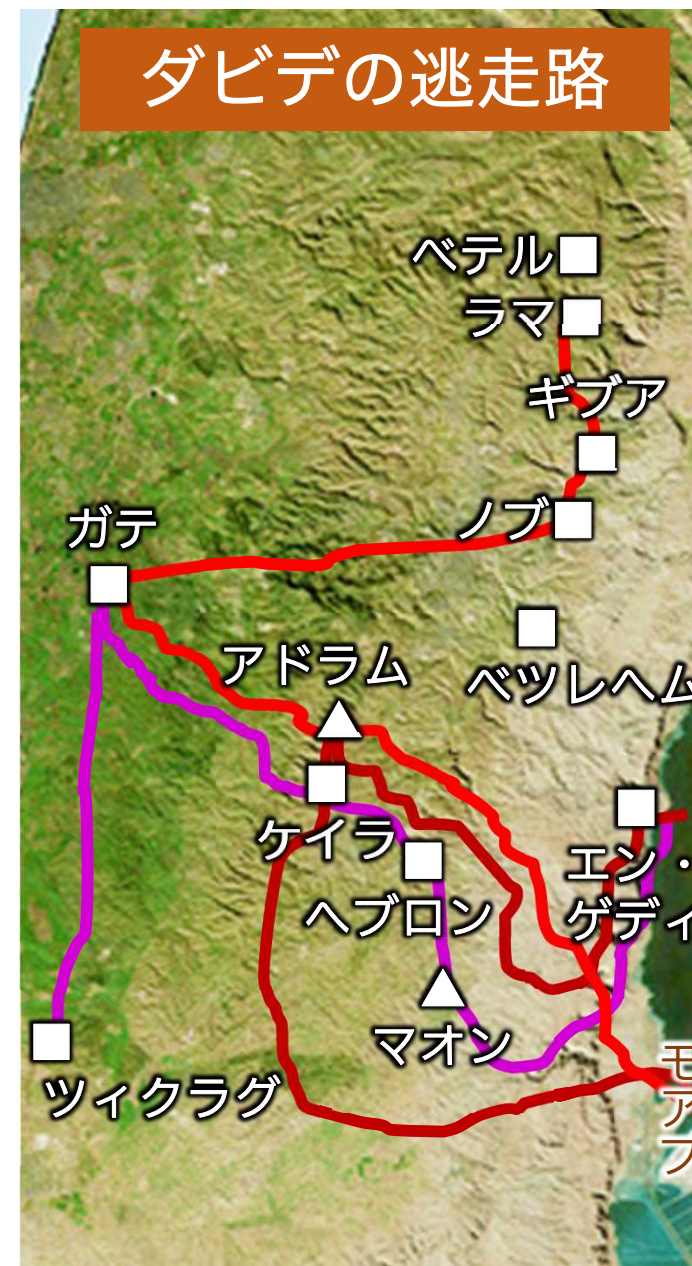


## 【ダビデの義】 | サムエル30:27～31

その送り先は、ベテルの人々、ラモテ・ネゲブの人々、ヤティルの人々、アロエルの人々、シフモテの人々、エシュテモアの人々、ラカルの人々、エラフメエル人の町々の人々、ケニ人の町々の人々、ホルマの人々、ボル・アシャンの人々、アタクの人々、ヘブロンの人々、すなわち、**ダビデとその部下がさまよい歩いたすべての場所の人々\***であった。

**\*逃亡生活の支援者たちに恩を返したダビデ。**

**■ ついに、ダビデの逃亡の日々は終わった。**







# Ⅲ. まとめと適用 御言葉を握りしめ 人生の荒野へ

雨季・アネモネの咲くベッセル川

## 【ダビデの逃亡生活を振り返ろう】

- サウルの激しい嫉妬と憎悪、殺意から逃れ続けたダビデ。  
苦難の中で、ひたすら主に聴き従い、**人々の厚い信頼**も得た。
- 何より絶体絶命の危機の中で、**ダビデの信仰は育まれた**。  
多くの詩篇の名歌は、逃亡生活のただ中で歌われたもの。
- 最大の危機を信仰によって乗り越えたが、その後、<sup>エアポケット</sup>**靈的真空状態**に。  
悔い改めて立ち返り、血族を取り返し、多くの報酬を得た。

**逃亡生活の苦難が、ダビデの王政の下地となった。**



エアポケット

## 【信仰の真空状態から立ち上がるために】

- 大きな**信仰的危機**を乗り越えた後に、ふっと落ち込む罨がある。罪の中にとどまる期間が長いほど、信仰的感性は鈍っていく。ペリシテ軍に加わったダビデの、悪の業に前のめりな、きわどい姿。
- ダビデに注がれた**聖霊**が、守り、助け、導いたのだろう。すべてのクリスチャンに内住される**聖霊**の存在を思い起こそう。
- 信者の救いが失われないとは、**懲らしめ**が必ずあるということ。父の愛の**懲らしめ**に、即、悔い改めるなら、祝福があると覚えよう。

## 【最大の信仰の戦いは常に内にある】

- 兵たちがダビデを殺そうとした。外的危機がさらなる内的危機に。外的危機の状況は、内的不安や不満を呼び覚まし、負のスパイラルへ、クリスチャンを引きずり込もうとする。  
➔ 乗り越えるための道は一つ。ただ主に立ち返ること。
- 信仰の成長とは、罪の自覚を深め、無駄をそぎ落としていくこと。歩みを阻害している、私に根付いた**罪の習慣**とはなんだろうか？
- 憐れみの主の懲らしめは、恵みだと知ろう。ダビデは歌っている。「あなたのむちとあなたの杖、それが私の慰めです(詩篇23:4)」と



## 【危機の中で考えた鹿追教会のこれから、私自身の使命】

■ 燃え尽き気味で、歩みをゆるめて振り返った。

燃え尽きるのは、無意識に、**主でないもの**により頼んでしまうから。

■ 私に与えられた賜物は？ **教えの賜物**。管理の賜物は、ない。

組織運営は向いていないし、求められてもいない。

■ ますます流動化する時代に、土地や物への固執は、阻害でしかない。

教えるだけなら、ワンルームで一人でも可能だと気づかされた。

→そして、正しく解き明かすなら、蒔いたみ言葉は、**自ずと実る**。

## 【終わりの時代の福音宣教を振り返る】

- コロナ禍で幸いしたのは、**小さな組織(地域教会)**であったこと。意思決定も早く、激変する状況に、即、柔軟に対応できた。終わりの時代に求められるのは、使命に特化したコンパクトな組織。
- 最大の危機に最高の成果を収めた使徒の時代。教会堂はなかった。地上の教会を支え成長させるのは、**福音宣教と御言葉の解き明かし**。
- 教会時代の命令は、使命のために**出て行く**こと。集うことではない。一人でできる仕事は一人で十分。それぞれむしろ、外に**出て行こう**。



## 【自信がないから、できないのか？】

- 危機の荒野に放り出されて、身がすくむのは当然だ。  
自信がないのは誰でも同じ。ダビデに生きのびる自信などなかった。
- 自信がない、と逃げ口上にする人は、ただプライドが高いだけ。  
失敗して打ち砕かれたくないから、勝ち馬だけに乗ろうとする。  
弱さをよそおう、巧妙で姑息な悪。利己的な罪の本質。
- 危機に乗り出せば、本当の仲間も見つかる。王となったダビデを  
生涯支え続けたのは、荒野を共に歩んだ同志だった。

**とにかく歩み出せ。すべてはそこから、はじめてはじまる**

## 【立ち返り、握りしめていくべき主の御言葉】

- 悔い改めたダビデは、主の御心を求め、即、聞き従った。  
ダビデにエポデが与えられたように、私たちには**聖書**がある。
- ますます主の御言葉に集中していこう。御心に沿って聖書を学ぼう。  
過程で必ず直面させられる、逃れられない自分自身の**課題**がある。
- ただ主を頼りにぶつかるなら、打ち砕かれても道は必ず開かれる。  
主に導かれ、己の道を歩み続ける**信仰の同志**が必ず与えられる。

**御言葉を握りしめ、課題から目を背けず、  
信仰の道を歩み続けよう。いつも、主が共におられるから。**



詩篇23篇

ダビデの賛歌





## 【詩篇23篇・ダビデの賛歌】

23:1 【主】は私の羊飼いです。私は乏しいことはありません。

23:2 主は私を緑の牧場に伏させ いこいのみぎわに伴われます。

23:3 主は私のたましいを生き返らせ

御名のゆえに私を義の道に導かれます。

23:4 たとえ死の陰の谷を歩むとしても私はわざわざを恐れません。

あなたがともにおられますから。あなたのむちとあなたの杖  
それが私の慰めです。

23:5 私の敵をよそにあなたは私の前に食卓を整え

頭に香油を注いでくださいます。私の杯はあふれています。

23:6 まことに私のいのちの日の限り いくしみと恵みが

私を追って来るでしょう。私はいつまでも【主】の家に住みます。



- 「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、
- ①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、
  - ②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
  - ③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

ダビデのように、人生の荒野(あらの)にあっても、  
ただ主を信頼(しんらい)して あゆみたいと願(ねが)います。  
約束(やくそく)の主が ともにおられます。  
み言葉を握(にぎ)りしめ、課題(かだい)から目を背(そむ)けず、  
信仰(しんこう)の道を あゆみ続ける者としてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」

# 鹿追教会のライブ配信のお知らせ

★イッピーとかち こどものつどい

2021年7月17日(土)13時半より

★Youtubeバイブルスタディ

2021年7月27日(火)10時から